

シグマ研究委員会光核反応データWG第1回会合議事録

日時： 1989年7月19日（水） 13:30-17:00

場所： 原研本部 No. 3 会議室

出席者： 浅見、五十嵐、上松、菊池、岸田、喜多尾、小林、村田

欠席者： 井頭、井口、北沢

議事：

1. 一般活動報告

(a) 五十嵐委員

- i. 運営委員会において核データ国際協力の件と JENDL-3 以後の評価活動について、議論がすすめられている。
- ii. JENDL-3 の現状について
 - A. 89/3 末で各評価者よりのデータ更新は終了。
 - B. 現在 File-1 の入力作業が行なわれている。
 - C. 89/8 末に全作業を終了し公開予定であったが、1ヶ月程度遅れる見通しである。

(b) 菊池委員

- i. 公開が1ヶ月遅れる主な原因は、 γ -線スペクトル・データの見直しが必要となったためである。
- ii. 10/1 より原研の全プログラム（データ・ベースを含む）は計算機センターの管理下に移る。所外の者が利用する場合、多少手続が煩雑になるかもしれない。

2. トピックス

- (a) 岸田委員より、光核反応データの現状についての紹介が行なわれた。
- (b) 浅見委員より、昨年度核データセンターの委託作業として行なった、Fe と W の光核反応の生データ・ファイル (XFOR format) 作成についての紹介が行なわれた。今後、このファイルをどのように拡張すべきかの方針が必要であるとの発言がなされた。

3. ファイル収納量の再検討

- (a) 今後作成される核データ・ファイルには、二重微分断面積と誤差ファイルが無いと見劣りがするという意見が大勢を占めたので、この二つも収納量に含めることにした。ただし、誤差ファイルについては、コバリアンスまで含めるのは大変なので、第一期としてはバリアンスのみ収納することにする。

4. エネルギー範囲の見直し

- (a) 昨年度は、E1 巨大共鳴の上限エネルギーである 50MeV まで、ファイル化することにしておいたが、その後の調査で (γ, π) 反応が開く 140MeV まで、データに系統性が存在し、ファイル化可能であることが判明してきたので、140MeV まで評価編集することにした。

5. 評価担当核の見直し

- (a) WG メンバーが変更となったため調整を行ない、以下のように決定した。

- 浅見 : W
- 五十嵐 : Bi
- 上松 : U
- 岸田 : Al
- 喜多尾 : Cu
- 北沢 : C
- 小林 : Ti, Ta
- 村田 : N, O

- (b) 今回、未出席者の井頭委員と井口委員については、何かの核を担当して戴くよう、岸田が連絡を取ることにした。

- (c) Pb に関しては、昨年度まで担当していた水元委員に、再度参加してもらえないか、五十嵐委員よりお願いしてもらうことにした。

6. その他

- (a) $30\text{MeV} \leq E_\gamma \leq 400\text{MeV}$ のエネルギー範囲で、光核反応断面積を計算出来る PICA コードを、RSIC より核データ・センターに導入してもらうことにした (担当 菊池委員)。

- (b) 次次回、小林委員に誤差ファイルについて説明してもらうことにした。

7. 次回予定

- (a) 次回は 9 月 27 日 (水) 午後、原研本部にて開催予定。

- (b) 主な議題は、

- i. MCPNC コードの紹介 (岸田委員)、
- ii. PICA コードの紹介 (上松委員)、
- iii. Al, Ta, W, Pb 核の評価 (実験値と計算値の紹介。実験値は各担当者が収集し計算は岸田が行なう)。

配布資料:

PNWG-89-1: FE と W の XFOR データ・ファイルについて (浅見)